

柳瀬川回廊構想策定に対して提出された意見等の概要及び 提出された意見に対する市の考え方

平成18年1月1日から平成18年1月20日までの20日間において、柳瀬川回廊構想策定検討報告書に対するパブリックコメントの募集を行った結果、15人の方から36件の意見等が提出されました。

そこで、これらの意見を適宜要約し、類似項目ごとに整理したうえで、意見に対する清瀬市の考え方を取りまとめましたので、清瀬市パブリックコメント実施要領第8条及び第9条の規定により次のとおり公表します。

[意見の分類及び件数について]

コースについて	14件
整備計画について	5件
自然環境について	13件
イベントについて	1件
その他	3件
計	36件

[提出された意見等の概要及び清瀬市の考え方]

【 コースについて 】

提出された意見等の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・柳瀬川回廊整備方針を見ると、台田団地の南西部崖線が入っていました。この崖は、自然のままです。ここに丸太階段等をつくり歩道としますと、崖線内の木々が傷んできてしまうのではないのでしょうか。それは、自然を失う第一歩ではないのでしょうか。また、静かな環境が損なわれます。 ・金山橋、城前橋間のコースには、台田団地南西部の崖線緑地を通るルートが設定されていますが、この崖線緑地の特に東側（金山調節池の向かい側）の自然度は極めて高く、しかも現状では通路の新設も必要と思われるうえ、多くの人の通行による自然破壊が懸念されます。したがって、この崖線緑地への入口は中里六丁目の市有林とし、林縁にある排水溝を通路として整備することを提案します。
清瀬市の考え方	柳瀬川回廊の目的の一つに、回遊性があげられます。これは流

	<p>域周辺の緑や親水公園、文化財などのルートを経由することによって、一定の人の流れをつくるとともに、より多くの自然と親しいんでいただくためのものです。</p> <p>しかしながら整備にあたっては、ご指摘のようにかけがえのない緑を一部人工的に手を加えなければならないことや、人の流入による自然破壊も懸念されます。また、静寂な環境を保全していくことも大切です。このようなことから、台田団地南西部崖線緑地につきましてはコース変更も含めて再検討したいと考えております。</p> <p>また、林縁にある排水溝を通路とすることにつきましては、近隣居住者との調整やその費用対効果等を考慮し、中里六丁目市有林から東に向かって柳瀬川崖線緑地へとつなげるルートを検討いたします。</p>
--	--

提出された意見等の概要	<p>本構想に文化財が含まれていることも優れた点の一つですが、それらをサブルートとして明示することを提案します。例えば、野塩の「円福寺」、中里の「氷川神社」「東光院」、下宿の「円通寺」「八幡神社」などはぜひ加えたいものです。</p> <p>あえて示さなくても、という考えもありますが、有名観光地でも、ガイドブックに載っていないはずれた場所が静かなスポットとなっていることはよく経験することです。</p>
清瀬市の考え方	<p>清瀬市には回廊コース外でも指定文化財などの貴重な史跡が点在いたします。今後、回廊ガイドマップ等で明示し、ご紹介していきたいと考えております。</p>

提出された意見等の概要	<p>城前橋より下流の堤防のコースについては、車両が通行し将来的に増える可能性があり、歩行者の安全を図るため別ルートも設定すべき。</p> <p>ルートとしては、下宿市民センター南通路からせせらぎの家、グラウンドと円通寺の間を通り、森田家の前から市民プール横へ、JR 武蔵野線の下を抜け旧水路（現在は道路状態）を進み堤防上に至るといった案です。</p> <p>回廊というには複数のルートがあった方がよいと思う。また、下宿体育館グラウンドのトイレが利用できることと旧森田家で休憩が可能であることなどの利点もあります。</p>
清瀬市の考え方	<p>回廊のコースは、柳瀬川流域の水辺、緑、親水施設、文化財などを結ぶことにより、水と緑の回遊空間として魅力的なものとなります。</p> <p>ご提案のとおり下宿地区には、史跡や武蔵野の面影を残すエリアが点在しており、ガイドマップのなかでもご紹介していきたいと考えております。</p>

提出された意見等の概要	<p>起点となる「梅坂橋」付近について、四中北側の中里緑地保全地域入口へのアプローチは坂道であると同時に狭く、危険箇所と思われます。</p> <p>そこで、以下の提案をします。</p> <p>メインコースを緑地保全地域内の通路ではなく、空堀川沿いの遊歩道とする。コースは構想のままとしても、起点を梅坂橋付近ではなく、緑地保全地域東側にある市民農園の一部を利用し、トイレなども設置して回廊の起点に相応しい整備を行う。</p>
清瀬市の考え方	<p>コースの選定につきましては、川沿いを基軸としながらも、雑木林のシンボルである中里緑地保全地域をコースの一部に設定したのですが、ご指摘のとおり起終点としては道路幅が狭いため、メインコースを川沿いに設定し、中里緑地保全地域内のコースは補助ルートとして検討いたします。</p>

【 整備計画について】

提出された意見等の概要	<p>公園駐車場の有料化及び利用時間の制限。</p> <p>夜間駐車の利用を禁止する。</p> <p>(最初の1時間までは無料、その後有料とする。)</p>
清瀬市の考え方	<p>駐車場の有料化につきましては、東京都の河川敷内を占有していることから、原則、無料開放としております。</p> <p>また、公園駐車場の夜間駐車につきましては、当初、17時で閉鎖しておりましたが、場内に残された車の処置等の問題から現在では、看板により注意を促しております。</p>

提出された意見等の概要	<p>清瀬駅及び秋津駅からのアプローチに関しては、多くの道路整備や歩道整備、交通信号の設置などが必要でしょう。</p> <p>また、中高年の利用も多いと予測されますので、起点・終点付近を通るバス運行を期待します。</p>
清瀬市の考え方	<p>柳瀬川回廊のアクセス道路整備に関しましては、秋津駅からのルートは、歩道拡幅整備等を継続的に行ってきております。</p> <p>清瀬駅からのルートは、けやき通りから柳瀬川通りを結ぶ南北道路について、歩行者の安全を確保するため、狭あい部分の拡幅整備を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、起点・終点付近を通るバス運行につきましては、野塩地域の起終点については、平成18年度運行予定のコミュニティーバスの利用が考えられます。また、下宿地域の起終点については、採算性を見据えた中で公共交通機関と協議を進めていきたいと考えております。</p>

<p>提出された意見等の概要</p>	<p>散策路の整備について 計画されているコースには、自然度の高い箇所があるので、自然破壊に対する対策が重要です。せっかくの水と緑の財産が損なわれるようでは、何のための計画であったかということになります。例えば、中里緑地保全地域内の通路についても、自然環境に合致した整備が必要で、コンクリートでの舗装など論外です。 また、斜面の通路は滑りやすいため、中高年者を考えれば、階段状に整備されることが推測されますが、石材や鉄材の利用は避け、木材の活用を提案します。</p>
<p>清瀬市の考え方</p>	<p>柳瀬川回廊は自然と親しむことを主眼においております。 よって、二次的な材料を自然林に持ち込むことは極力避けたいと考えております。 また、柳瀬川回廊のコースはもとより、市内の緑道整備におきましても、コンクリートやアスファルト舗装などの二次的な材料の使用は極力避けたいと考えております。</p>

<p>提出された意見等の概要</p>	<p>解説板の設置について この回廊を、水と緑すなわち自然についての啓蒙の場ととらえ、必要な自然解説板の設置を望みます。案内板も加えて、あまり多くなるのも問題ですが、必要最小限の解説板の設置は欠かせません。</p>
<p>清瀬市の考え方</p>	<p>回廊の整備にあたっては、柳瀬川を始め、雑木林や親水公園等の誘導表示を優先いたしますが、可憐な花や飛来する野鳥など、見逃せないスポットが多く存在します。このような箇所には解説板を設置し、付加価値をつけていくことが必要であると考えます。</p>

<p>提出された意見等の概要</p>	<p>インフォメーションコーナーについて これはすばらしい計画です。せっかくつくるのであれば、目的と具体的な企画を考え、最初からしっかりした計画で進めてほしいものです。具体的には、 休憩場所として・・・これは、第1義的目的でしょうが、併せて喫茶コーナーや簡単な食品や絵はがきなどの自然グッズの売店コーナーくらいあってもよいのではないのでしょうか。もちろん、トイレが必要です。 情報発信の場として・・・展示、会議、広報活動などが行える場として考え、できれば片隅にガイドが常駐できるようなスペースがほしいものです。</p>
<p>清瀬市の考え方</p>	<p>現在、東京都により清瀬橋に程近い中里団地敷地内に地域市民センターを建設する準備を進めております。この施設内には多目</p>

	<p>的ホールをはじめ、休憩場所としての広いロビーやさまざまな情報発信の場として、展示や各イベントなどを行うことができるインフォメーションコーナーを設けることを検討しております。もちろん駐車場、駐輪場やトイレ完備となっており、センターに隣接して公園の整備も併せて計画されております。</p>
--	---

【 自然環境について】

<p>提出された意見等の概要</p>	<p>前提としては、今後の清瀬市環境基本条例及び清瀬市みどりの環境をつくる条例に社会的制裁・罰則規定を盛り込み、実効性のある条例にしてから、柳瀬川回廊構想の活動にリンクさせ、環境保全を脅かす者を許さない取組みを図るよう望む。</p> <p>1) 公表 定められた協議をしない者や指導に従わない者、届出の義務を怠る或いは虚偽の届出をした者を公表する。</p> <p>2) 罰則 禁止行為の規定を設け、違反者より過料を処す。 禁止行為としては、植物の伐採や採取、鳥獣及び魚類の捕獲や殺傷、不法投棄、その他環境の管理に支障があると認められる行為をするなど。</p>
<p>清瀬市の考え方</p>	<p>柳瀬川回廊の目的は、柳瀬川流域の水辺、緑、親水施設、文化財など、清瀬の財産である自然を「水と緑の回遊空間」として位置づけることにより、このまちの魅力ある環境を多くの方々に知っていただくことにあります。また、一部の心無い行為により環境を脅かすご指摘のような事件につきましては、法律により処罰されるものと考えておりますが、現在、みどりの創生や環境保全の強化に向け「清瀬市みどりの環境をつくる条例」及び「清瀬市環境基本条例」の制定に向けて準備を進めているところでございます。しかしながら、環境を守るためには法律等で解決することにも限界があり、訪れる人自身がみどりと環境の保全に努める意識がなにより大切です。さらに市民との協働による活動として、河川流域並びに緑地等の適正な利用や自然環境の保護を目的に、「自然保護レンジャー制度」により自然を愛する方々のご協力による啓発活動を実施しております。</p> <p>今後も柳瀬川回廊整備とともに環境保全活動の推進に努めてまいります。</p>

<p>提出された意見等の概要</p>	<p>所沢市・新座市との連携強化（協定を結び環境保全の共有化を図る）</p>
<p>清瀬市の考え方</p>	<p>現在、広域行政圏（小平市、東村山市、東久留米市、西東京市、</p>

	<p>清瀬市の5市で構成)により、都市化の進展などにより失われつつある貴重なみどりを保護する事業や活動を展開しております。</p> <p>今後は、柳瀬川回廊エリアに隣接する所沢市や新座市との連携を模索していくとともに、みどりの保護についても検討していきたいと考えております。</p>
--	---

提出された意見等の概要	重点保全エリアの設定(貴重な動植物を確実に守る為、立入り禁止エリアを設置。)
清瀬市の考え方	植物等の保全に関しましては、カタクリが群生する中里緑地保全地域内など、進入禁止用の柵や立入り禁止の看板の設置などにより一定の効果をあげてきました。現在、人と自然が調和して共生できる環境づくりを基本理念とする「清瀬しみどりの環境をつくる条例」の策定に取り組んでおりますが、崖線緑地や水辺の自然環境を保全するため、河川等の管理者及び市民と協力して、適正管理に努めたいと考えております。

提出された意見等の概要	河川流域でのバーベキュー可能区域・禁止区域を明確にする。
清瀬市の考え方	河川敷内の行為制限や区域指定等については、東京都の管轄下にありますので、どのような規制が必要となるのか、東京都と協議していくこととなります。

提出された意見等の概要	下宿地域の柳瀬川に面したところは、スポーツ施設が数多くあり人々の憩いの場所として気持ちよく過ごせる環境をつくるようお願いします。
清瀬市の考え方	柳瀬川流域に隣接する下宿地域は、下宿第三グラウンドをはじめスポーツ施設が充実している地域です。来年度、更にサッカーグラウンドを新設することとなっており、多くの市民がこの地域に訪れるものと予想されますが、快適に過ごせる環境をつくるには、なにより利用者等のマナーが大切です。これからも多くの方々から愛される施設となるよう、周辺的环境に配慮していきたいと考えております。

【 イベントについて】

提出された意見等の概要	こうした企画において、立派な施設がつくられても、死物化しているケースをよく目にします。それは、つくった施設、つまりハードをうまく活用するソフトが軽視されるためです。ハードを生かすか殺すかは、ソフト次第です。
-------------	---

	<p>そこで、この計画でも、ぜひ広報も含めたソフトのための予算を施設完成後も継続的に用意して欲しいものです。市内のみならず、市外からも多くの人に訪れてもらうためには、特に当初の広報活動が重要です。広く知れわたってしまえば、後は口コミによってうわさは広がるでしょう。多くの来訪者があれば、今度は期待を裏切らないための、より高次の広報活動が求められます。これらはすべてソフトです。</p> <p>パンフレット1つをとってみても、おざなりな手作りというわけにはいきません。さらに、清瀬の自然をPRする絵八ガキやパンフレットなどの有料グッズや各文化財のガイドパンフなどの作成・販売も可能です。</p> <p>また、集客のための各種イベントの企画も必要でしょう。それもボランティアに依存するのではなく、市の意気込みが感じ取れるような姿勢が必要だと思います。これらは、もちろん市の収益を上げることにもつながることです。</p>
清瀬市の考え方	<p>広報活動については、来年度にパンフレットやポスターをはじめ、インターネット、広報紙により、市内のみならず広く周知を図っていく予定です。</p> <p>また、ソフト関連事業につきましても、柳瀬川回廊に関するイベントや柳瀬川流域の自然をPRできる手法など、必要とされるニーズに対して市民、事業者、市による協力体制の基盤を整えることが肝要です。</p> <p>さらにご指摘のとおり回廊として相応しい付加価値をつけていくことが集客につながり、柳瀬川回廊を持続可能としていくことができるものと考えております。</p>

【 その他 】

提出された意見等の概要	<p>柳瀬川回廊を成功させるためには、ソフト面の充実が欠かせませんが、それには有能な専門の人材が必要です。安易な人事で済むことではありません。場合によっては、広告代理店などから有能な人材をスカウトしてくるぐらいの意気込みが必要ではないでしょうか。そのことにより活性化が図れます。人材の確保には、まだいろいろな方策が考えられますが、仕事を決めるのは企画と人です。本構想は素晴らしい企画と考えますので、あとは人材です。</p>
清瀬市の考え方	<p>ご指摘のようにソフト面の充実を図っていくためには、専門的人材の確保が重要であり、民間活力や今後定年退職を迎える世代の豊富な実績と知識を持った人材の活用が考えられます。また、地域の担い手の確保、意欲、技量がイベントの成否を左右するこ</p>

	<p>とから、柳瀬川回廊の成功の鍵は「地域の担い手づくり」ともいえます。</p> <p>また、イベント等の実現は、当該地域の住民のほか、市、商店街や農協などの地域公益団体、道路・河川等の関係する施設管理にあたる行政機関、更には他の地域から訪れる市民など、多くの主体が関係する公民協働のパートナーシップで進めることが重要であると考えます。</p>
--	--

[提出された意見等により構想案の修正を検討する事項]

台田団地南西部の崖線緑地を通るルートを変更。

柳瀬川回廊コースの起終点となる梅坂橋付近について、中里緑地保全地域内の通路ではなく、空堀川沿いの遊歩道とする。